第１６号（令和２年８月１日）

登別市史編さんだより

登別市総務部秘書広報グループ
市史編さん担当　更科
〒059-8701
登別市中央町６丁目１１番地
Tel 0143-50-6039
Fax 0143-85-1108

お知らせ　市制施行 50 周年を迎えました

登別市は、本年８月１日をもって昭和 45（1970）年８月１日の市制施行から 50 周年を迎えました。

市制施行に伴うものではありますが、「登別市福祉事務所の設置」、「救急業務の政令指定」なども同じく 50 周年を迎えました。

これまでの 50 年を振り返り、これからの 50 年を考える一つの機会である市制施行 50 周年。新型コロナ感染症の拡大防止などのため、記念式典等は延期となっていますが、８月１日は、それぞれの方法でこの 50 周年をお祝いしてみませんか。

市制施行 50 周年記念ロゴマーク

資料の紹介　北海道一周旅行のしおりを提供いただきました

慶応義塾高等学校
北海道一周旅行団のしおり(1967 年)

昭和 42(1967) 年７月、慶応義塾高等学校（東京都）では、上野駅を出発して８泊９日（汽車での１泊のほか、湯の川や定山渓、層雲峡、川湯、十勝川、登別温泉、洞爺湖の７か所に宿泊）の北海道一周旅行が行われました。

今回、青森県在住の方から登別温泉に関する「しおり」を提供いただきました。

「しおり」には、登別の名勝として「登別原始林」や「大湯沼」などを紹介するほか、アイヌ民族の伝承やアイヌ語地名が紹介されています。また、アイヌ文様がページの縁取りとしてあしらわれています。

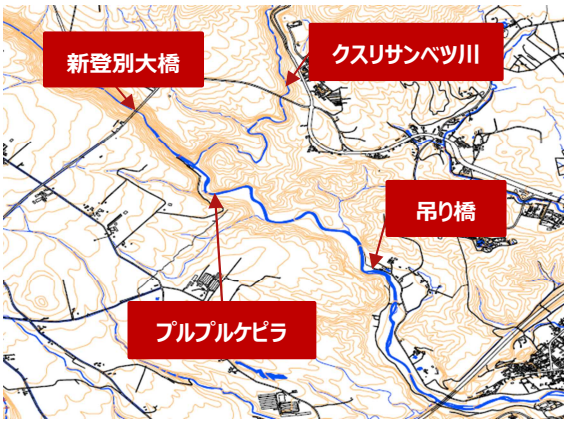
慶応義塾高等学校に問い合わせたところ、同校には 1957 年の「しおり」が所蔵されていること、「しおり」は同校が作成したものではなく、宿泊地で有る登別温泉側で作成したのではないかとのことでした。

※資料に関する情報提供のお願い

市史編さん担当（電話０１４３（５０）６０３９）では、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

街の様子 プルプルケピラと吊り橋（登別川）



登別川（地理院地図に地点名を追記）

（上・下）水がわき出る様子（1999 年撮影）

登別川は、オロフレ峠付近から流れ出し、途中で登別温泉から流れ来るクスリサンベツ川をはじめとする支流を合流して、太平洋に注ぐ川です。

市名「登別」の由来となるアイヌ語地名「ヌプル・ペッ（色の濃い川）」は、この登別川のことで、川の水の色が温泉成分によって濁った状態になっていることだとされています。

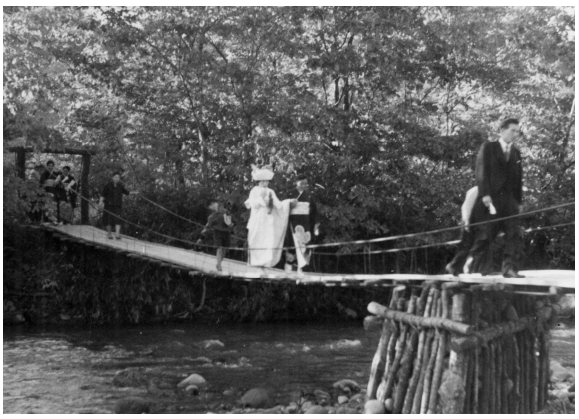
今回、知里真志保、山田秀三両氏の労作『幌別町のアイヌ語地名』に採録された登別川に関するアイヌ語地名の一つ、「プルプルケピラ」を紹介します。

「プルプルケピラ」とは、アイヌ語で「清水が湧き出ている・崖」を意味し、「左岸の岩崖の下から清水が幾条（いくじょう）もの噴水となってピューピューふき出している」様子と説明されています。

水が噴き出している場所は、両岸が崖のように切り立ち、たやすく近づくことができる場所ではありませんが、市民の方が約 20 年前に同地で撮影した写真を提供してくださいました。

写真からは、『幌別町のアイヌ語地名』のとおり、川底からきれいな水がふき出しており、その周囲は、クスリサンベツ川から流れ込んだ温泉水の影響を打ち消して、清流のように水がきれいになっていることがわかります。

たやすく行くことができない場所にもあるアイヌ語地名。ここは、昔のアイヌ民族にとって、どのような場所であったのでしょう。



登別川の吊り橋を渡って嫁入りする花嫁（撮影年不詳）

神輿渡御（とぎょ）（吊り橋前・撮影年不詳）

登別川に架かる吊り橋。昭和 34（1959）年作成の「幌別町全図」では、登別川の左岸に沿って伸びる道は、現在の登別さけ・ますふ化場付近で一度札内（右岸）側に渡り、数メートルで再び左岸側に戻る経路をたどっていたようでした。この川を横断するために２基の橋が架けられており、そのうちの一つが写真の吊り橋であったものと推測されます。

「幌別町全図」には、登別川の札内側川岸に住宅が数軒あった様子が記されています。